

Interview

町立病院の連携で医療サービス向上。地域住民から信頼。



三石地域協議会長  
藤江 龍弘 さん

三石地域協議会は、地域課題の解消を図るための意見交換を行う場として、平成18年に設置されました。三石地域住民は「安心・安全なまちづくり」を強く望んでいます。それには医療や福祉、防災、交通などさまざまな課題が含まれますが、その中でも「医療の充実」を望む声が多く聞かれます。そして、三石地区唯一の医療機関である三石国保病院は、三石地域住民が安心して暮らすために、欠かせない存在となっています。

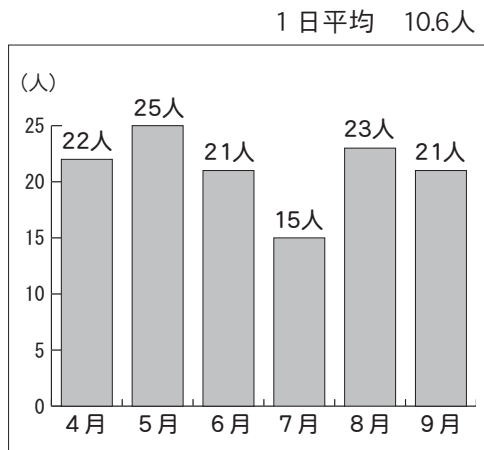
町立静内病院の循環器科外来には、三石地区から年間延べ500名以上が受診しています。大きな検査を必要としないペースメーカーの点検や薬の調剤などでの受診も多いため、三石国保病院で循環器科外来の受診を望む声が多く聞かれました。そして、昨年の6月13日に三石国保病院での循環器科外来の開設を含めた「町立病院の地域医療体制の連携に対する意見書」を町に提出しました。

相互診療の実績

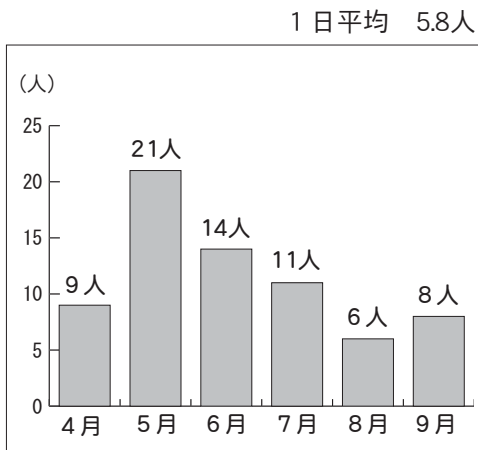
■町立病院相互診療外来患者数

月	日	循環器内科	小児科
4月	5日	10人	6人
	19日	12人	3人
5月	10日	14人	8人
	24日	11人	13人
6月	7日	8人	3人
	21日	13人	11人
7月	5日	7人	4人
	19日	8人	7人
8月	2日	11人	5人
	23日	12人	1人
9月	6日	9人	3人
	20日	12人	5人
合計		127人	69人

■町立三石国民健康保険病院  
循環器内科外来患者数【月別】



■町立静内病院  
小児科外来患者数【月別】



相互診療の日程【11月】

月日	病院名	担当医
11月1日(木)	三石国保病院	循環器内科・小松院長
	町立静内病院	小児科・三浦院長
11月15日(木)	三石国保病院	循環器内科・小松院長
	町立静内病院	小児科・三浦院長

- 受付時間:13時30分~16時00分
- 毎月第1と第3木曜日の予定ですが、都合により変更する場合がありますので、受診される場合はご確認願います。
- 相互診療の日程は、毎月広報誌に掲載しています。



安心して充実した町立病院を目指して

7年目の挑戦

地域住民に、安心して充実した地域間格差のない医療サービスを提供したい。旧静内町と旧三石町が合併し、7年目を迎えた今年。町内にある二つの町立病院による「相互診療」という新たな挑戦が始まっている。

問合せ

町立静内病院 ☎ 42・0181  
町立三石国保病院 ☎ 33・2231

新ひだか町には、町立静内病院（小松幹志院長）と町立三石国民健康保険病院（三浦正次院長）の二つの町立病院が存在する。両町立病院は、静内、三石それぞれの地区で地域医療の中核的な役割を果たしており、私たち町民にとって、なくてはならない存在だ。

しかし、公立病院を取り巻く環境は、国の医療費抑制や全国的な医師不足、経営難など厳しい状況が続いている。そんな中、地域住民に安心してさらに充実させた医療サービスを提供しようと、両町立病院による新たな取り組みが始まっている。

昨年6月13日に三石地域協議会から、三石国保病院での循環器科外来の開設などを求める意見書が提出された。

そして、両町立病院は、今年4月から両院長が交代で診察をする「相互診療」を始めた。相互診療は毎月2回、第1と第3木曜日の午後に小松院長が三石国保病院で循環器内科を、三浦院長が町立静内病院で小児科の外来診療を行っている。

相互診療開始から半年が経過し、その効果は、また、今後も町民に充実した医療サービスを提供する両町立病院の取り組みは、



三石国保病院で循環器外来の診察をする小松院長。



こまつ・かんし

昭和36年6月生まれ。札幌市出身。平成2年札幌医科大学医学部大学院卒業。小樽朝里病院勤務後、米国ピッツバーグ大学胸部心臓外科に2年半留学。帰国後、札幌医科大学を経て平成18年、約10年間、出張医として訪れていた縁で新ひだか町立静内病院に就任。平成21年4月から日高医師会長。

## 新ひだか町立静内病院長 小松 幹志 医師



患者さんの慣れ親しんだ  
地元で治療を完結したい。  
町内医療機関の連携を強め、  
患者情報の共有化。  
「地元完結型医療」を目指す。

Interview

町立静内病院の現在の医療体制について伺います。常勤医は内科2名、循環器科2名、外科1名の5名体制で、診療科目は内科、循環器科、外科、小児科、皮膚科を標榜しています。また、出張医による整形外科、呼吸器科の外来診療を行っています。

地域医療の中核を担う町立病院として日ごろから心がけていることは

地元の患者さんは、ここで治してあげたい。出張医で来ていたころから、患者さんの実情を目の当たりにして、そう強く思っていました。慣れ親しんだ地元を離れ、知らない土地での治療に不安を感じる患者さんも多くいます。この6年間「地元完結型医療」を目指し、私たちにできることを少しずつ実行しています。

合併後、二つの町立病院となり、それぞれの役割をどのように考えていますか。新ひだか町はエリアが広いため、通院時間など患者さんの負担を考えると、各地区の拠点病院として、二つとも活用していきたいと思っています。また、災害時に

近い将来導入し、治療に活かしていきたいと考えています。

町民は安心して医療が受けられるために、365日24時間体制を望んでいます。かかりつけの患者さんには、体調が優れない場合、いつでも病院に連絡下さいと伝えていきます。私も町立病院として、365日24時間体制を整えるべきだと思います。現在システムを構築中です。まずは、看護師の数を確保する必要があります。

一部では、外来の待ち時間の長さや職員の接客態度等に不満の声が聞かれますが、改善策等はどうのように考えていますか。

昨年からは貸本やテレビの設置を行い、待ち時間を感じさせない取り組みを行っています。接客態度については、医師、看護師、事務スタッフなど病院の全職員が定期的に接遇講習を受けて、日ごろから100%の医療サービスを提供するよう心をかけています。

相互診療の効果をどう感じていますか。

もう少し患者数を増やしたいと思っています。現在

同じ町立病院としての機能を持った病院が違う場所にあれば、互いにカバーができます。

町立静内病院は、地域に根ざした他病院とは違う「循環器科」を開設していますが、PRは行われていますか。

2年に一度、救急の日の記念講演会でPRしており、静内地区では認知度が高まっていると感じています。今後、三石地区での認知度を高めるため、講演会や講座を各地区で行い、PRしていきたいです。

町立静内病院で行っている循環器手術について伺います。

昨年は全部で120件の手術を行っており、心臓カテーテル、下肢静脈瘤手術、ベースメーカー手術が主なものです。今後、人工血管等を用いた下肢動脈バイパス手術の症例数を増やすためには、麻酔科医の確保が必要です。また、心臓以外の疾患にも目を向け、さまざまな患者さんに対応した低侵襲でできる治療に取り組みたいと思います。具体的には、レーザーを使って静脈瘤を手術できる設備を

は月2回なので、毎週行えば患者数が増えるのではないかと感じています。

今後の相互診療の充実に向けて、どのように考えていますか。また、町民に充実した医療を提供するための取り組みはありますか。

現在、カルテ情報は紙ベースで各病院に保管しているため、相互診療の際には、事前に細かい情報を送っています。一人の患者のカルテがそれぞれの病院に、二つある状態です。カルテ情報を電子化し、一元管理を行えば、どちらの病院でも検査データやレントゲン写真、血液検査の結果などを見ることができ、離れていても一つの病院として機能します。現在、このシステムの整備を進めています。そして、データを引き出せるシステムが整備されていれば、どの病院でも患者情報を見ることができ、将来的には、町内の医療機関にも導入し、町全体で患者情報を共有し、足りない部分を他の医療機関で補い合うことで「総合病院」に近い機能を発揮したいと考えています。





医療に格差があつてはならない。  
三石国保病院は  
三石地区唯一の医療機関として  
地域住民に安心・安全な医療を  
提供する義務がある。

## 新ひだか町立 三石国民健康保険病院長 三浦 正次 医師



町立静内病院  
で小児科外来  
の診察をする  
三浦院長。



みうら・せいじ

昭和25年3月生まれ。札幌市出身。昭和52年札幌医科大学医学部卒業。市立旭川病院、北海道大学医学部附属病院、聖母会天使病院勤務を経て、平成13年、三石町立三石国保病院に着任。平成16年に同病院院長に就任。

### Interview

—三石国保病院の現在の医療体制について伺います  
常勤医は内科1名、外科1名の2名体制で、診療科目は内科、小児科、外科を標榜しています。  
—地域医療の中核を担う町立病院として、日ごろから心がけていることは  
三石国保病院は、三石地区にある唯一の医療機関として、三石地区住民に救急医療を含めた安心・安全な医療を提供する義務があります。また、患者さんが安心できるような親しみのある診察で、信頼関係を築くよう心がけています。  
—合併後、二つの町立病院となり、町立病院の役割をどのように考えていますか  
三石国保病院は、一般病床と療養病床を併せ持っているのが特徴です。高齢者の場合、肺炎の治療にも2〜3週間かかるなど、入院期間が長くなってしまいましたが、2種類の病床があることで、急性期から長期療養が必要な患者さんまで対応しています。  
—町立三石国保病院は、地域に根ざした他病院と違う  
医が対応する、外科処置を要する患者さんが受診した場合に外科医が対応する、ということではできませんので、なるべく平日外来での受診をお願いします。  
—一部では、外来の待ち時間の長さや職員の接客態度等に不満の声が聞かれますが、改善策等はどのように考えていますか  
なるべく待ち時間を少なくするよう、患者さんの状況をみて検査結果を翌月に伝えるなどしていますが、一人一人の患者さんと向き合うためには、ある程度の待ち時間はご理解下さい。  
接客態度については、接遇研修を定期的に行っています。病院に対する不満があれば、その都度対応しますので、院内に設置している投書箱に入れて下さい。  
—相互診療の効果をどう感じていますか  
三石国保病院に循環器外来ができたことで、毎月静内まで通院していた患者さんが三石でも受診でき、便利になりました。また、心臓病の心配のある患者さんが気軽に循環器外来に受診

「小児科」を開設していますが、PRは行われていませんが、現在は小児の入院を受け入れていないため、大々的なPRは行っていません。また、PRすることで、コンビニ受診が増えてしまう可能性もあります。これ以上の夜間診療は難しいので、患者さんには平日外来での受診を勧めています。  
—三石国保病院で行っている外科手術について伺います  
平成23年1月から胃腸造設手術と皮下埋め込み型中心静脈ポット造設手術をそれぞれ10例ずつ行っています。現在、手術室の整備計画を進めています。手術室ができた場合は、鼠径ヘルニア手術、痔手術、人工肛門造設手術、気管切開手術など、日帰りや一泊入院手術から実施していきたいと考えています。  
—町民は安心して医療が受けられるために、24時間365日体制を望んでいます  
三石国保病院では、現在医師の24時間365日体制を行っていますが、夜間の当直医は一人です。小児科者が受診した場合に小児科  
できるようになりました。しかし、一般内科の患者さんや小児科の患者さんが受診できないというデメリットも感じています。  
—今後の相互診療の充実に向けて、どのように考えていますか  
相互診療を行っていることをアピールして、受診患者を増やし、ICTを介した情報共有で充実を図っていきたいと思います。  
—町民に充実した医療を提供するための現在の取り組みや、今後取り組みようとしている構想はありますか  
充実した医療を提供するためには、医師や看護師の確保は絶対不可欠です。看護師は募集してもなかなか集まらないので、1日勤務にこだわらずパート勤務など、さまざまな雇用形態に対応していきたいと思っています。また、小さい子どもがいる看護師に対しては、当院には院内保育所がないため、近隣の保育所に入所する際に補助金を出すなどの支援を行い、働きやすい環境を作っていきたいと思っています。



# 白寿祝状授与

次の方々が白寿を迎え、  
家族が見守る中、新ひだか町から祝い状、社会福祉協議会から記念品が贈られました。  
皆さん、これからも元気でお過ごし下さい。



川端 コスミ さん (三石旭町) 9/22

川端コスミさんが白寿を迎え、入所先の特別養護老人ホーム「蓬萊荘」で、家族とともに99歳の誕生日を喜びました。  
川端さんは旧三石町出身で、農業を営んでいた故・川端市雄さんと昭和9年に結婚し、4男3女の子どもに恵まれました。  
この日は、札幌市や横浜市など各地から子どもや孫、ひ孫16人がお祝いに駆けつけ、誕生日を祝福しました。



竹内 キヨ さん (三石旭町) 9/25

竹内キヨさんが白寿を迎え、入所先の特別養護老人ホーム「蓬萊荘」で、家族とともに99歳の誕生日を喜びました。  
竹内さんは旧千歳郡恵庭村出身で、昭和10年に故・竹内信市さんと結婚し、3男3女の子どもに恵まれました。好物の魚をゆっくり食べることが長寿の秘訣だといいます。  
この日は、子どもや孫など10人がお祝いに駆けつけ、誕生日を祝福しました。



寶金 キク さん (三石島舞) 10/13

寶金キクさんが白寿を迎え、家族とともに99歳の誕生日を喜びました。  
寶金さんは旧三石町出身で、故・寶金廣さんと昭和12年に結婚し、2男1女の子どもに恵まれました。  
現在はグループホーム「ゆとりの里三石」に入所しており、野球観戦や新聞を読むのが日々の楽しみで、施設でのレクリエーション競技にも参加し、元気に過ごしています。



永井 正男 さん (三石蓬栄) 10/17

永井正男さんが白寿を迎え、家族とともに99歳の誕生日を喜びました。  
永井さんは旧三石町出身で、昭和16年に故・政子さんと結婚しました。  
現在は特別養護老人ホーム「愛誠園」(むかわ町)に入所しており、絵を描くことや甘いものを食べることが好きで、毎日元気に過ごしています。  
この日は親族がお祝いに駆けつけ、誕生日を祝福しました。

## Voice — 患者の声 —

相互診療で受診した患者さんに話を伺いました。



通院の負担が軽くて便利です  
神垣 久子 さん (61歳・三石西端)

今年の4月、息苦しさを感じたので三石国保病院に来たところ、たまたま相互診療の日で、小松院長に診察してもらいました。心不全と診断され、町立静内病院に4日間入院しました。  
現在は毎月2回、相互診療の日にコミュニティバスを利用して三石国保病院(循環器内科)に通院しています。自宅からは三石国保病院の方が近いので、体への負担も少なく通院できて助かっています。今後は、午前中の診察を希望します。

近い病院での診察は安心できます  
築紫 利春 さん (68歳・三石福畑)

5年前に苫小牧市立病院に搬送され、カテーテル治療を受けました。その後、約3年間、町立静内病院に毎月1回通院していました。相互診療が始まってからは、三石国保病院(循環器内科)に通院しています。今まで片道40分かかっていた通院が10分になり、とても楽になりました。これから冬になると、もっと便利だと実感すると思います。  
年をとると、だんだん通院が大変になるので近くで診てもらえると安心できます。

小児科を受診する時は、いつも町立静内病院を利用しています。  
子どもが急に熱を出し、初めて相互診療の日の小児科を受診しました。  
今回のように、子どもは急に具合が悪くなることもあるので、できれば毎日小児科を開設してほしいです。また夫婦共働きのため、月・水・金の受付時間をもう少し長くしてもらえたら助かります。  
(20代・女性)

町立病院は、町民の皆さんの声を聞きながら  
「安心して充実した町立病院」を目指して、医療サービスの向上に努めます。

## Profile

### 新ひだか町立静内病院



- 所在地 〒056-0004  
新ひだか町静内緑町4丁目5番1号  
☎42-0181 FAX42-4427
- 診療科目 6科(内科、外科、循環器科、小児科、皮膚科、整形外科)
- 病床数 58床

### 新ひだか町立三石国民健康保険病院



- 所在地 〒059-3108  
新ひだか町三石本町214番地  
☎33-2231 FAX33-2283
- 診療科目 4科(内科、外科、小児科、循環器内科)
- 病床数 42床(一般病床20床 療養病床22床)

# 看護師募集 “やる気のある方” 随時、採用しています

\* 勤務体制や福利厚生、給与面、応募資格等は各病院にお問い合わせ下さい

【町立静内病院 ☎42-0181 町立三石国民健康保険病院 ☎33-2231】